

## 第14回「県政ひざづめ談議」概要

開催日時：平成19年12月21日 14：30～

開催場所：早川町 南アルプスプラザ

### [司会]

ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。  
本日の進行役を務めさせていただきます県の広聴広報課長、田中でございます。  
よろしくお願いいたします。  
それでは早速、横内知事からごあいさつを申し上げます。

### [知事]

皆さん、こんにちは。

知事に就任をして10カ月になりまして、色々な課題がありますものですから一生懸命やっているわけでありまして。山梨県がどうも今一つ元気がないものですから、何とか一つ元気を出そう、出してもらおうということでがんばっているわけでありまして。

今日は『ひざづめ談議』ということでざっくばらんに色々な分野で活躍しておられる方々のご意見を本音でお伺いをさせていただきたいという会合であります。もう何でもいいから本音でお考えになっていることをお教えをいただければありがたいと思っております。

早川町はもう私も長いお付き合いでよく承知しているわけでありまして、アイデアマンである辻町長さんの下で町民の皆さんが本当に結束をして、町の活性化のために努力をしておられるわけでありまして。

山梨県の中でも、そういう意味では一番過疎の山村ではありますが、そうやって苦労して皆さんが努力をして元気な町ができているんじゃないかなと思います。非常に最近では県も市町村も財政が厳しくなって、早川町の町長さんをはじめ、財政の運営が大変だろうとは思いますが、そういう中であっていろいろな試みをしておられるわけでありまして。

例えば東京に富士の国やまなし館という山梨県の物産館がありますけれども、早川町だけはそこから早川町に移住をしたいという人がいればテレビ電話で電話をすれば、町長が出てきて色々PRしたりとかやったりしているようでありまして、さすが色々新しいことをおやりになって大したもんだなと思っております。

今日は観光振興をテーマにお話をさせていただきたいと思いますが、別に観光振興にとらわれず何でもご意見があればおっしゃっていただきたいと思います。そんなことで是非本音で色々なお考えのことをお教えいただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

[ 司会 ]

ここで本日出席しております、県とそれから町の担当課長を紹介させていただきます。

県の観光部で大型観光キャンペーン、それから農村と都市の交流推進などを担当しております堀内観光振興課長です。

同じく観光部で観光地の景観対策、それから山岳観光の振興等を担当しております金子観光資源課長です。

それから早川町の産業政策全般を担当しております望月振興課長です。

今日は早川町内で観光に携わっている方々、それから地域づくりに積極的に取り組んでいらっしゃる皆様方と『自然を活かした観光振興』をテーマに意見交換を行いたいと思っております。

南アルプスや白鳳渓谷をはじめとする豊かな自然、それから町内に多数湧き出しております温泉、これらの観光資源を生かす観光地づくりを進めていくためにはどういうふうにするればいいのか、それからそれぞれにどんなことが必要か、そういう観点で参加者全員で話し合いを進めていきたいと思っております。そういうことで思うところを自由に活発に発言していただきたいと思っております。

本日いただいた皆様からのご意見、これは今後の県政の参考にしたいと思っております。

それではご発言をお願いいたします。

[ 参加者 ]

私どもの町の抱えている重要な課題というのは、やっぱり過疎の中で主たる産業がない中でこれからどうしていけばいいかということ。

かつては土木建築業が非常に大きなウェートを占めておりましたけれども、衰退の一途をたどっている。そうするとあとは、このテーマのように『自然を活かした観光振興』ということになるんだと思います。

ただ当町の抱えているこの非常に広い面積の中に、それぞれコンセプトの違う観光施設というのが点在しておりまして、まとまった宣伝とかが中々難しいものですので、その辺をこれからどういうふうにしていけばいいかということと、それから、今一番中心から遠いのは早川町の奈良田じゃないかと、そうするとやっぱり交通インフラといいますか、ただお陰様で昔から考えると見違えるような道になっておりますが、災害時でも雨量が70ミリで交通ストップという中で、せめて100ミリぐらいまで交通ストップの度合いを増やしていただきたい。

また中部横断自動車道の早期の開通というのはこの町にまた画期的なことをもたらすのではないかと思います。

そのために地域住民がその時期に対してちゃんとした受け皿づくりをするべく努力しなければいけないと思います。これからは行政から何かをしてもらうということではなくて、自分たちが自主的に特色とかコンセプトを活かして生き残っていく時代じゃないかと思えます。早川町の観光は、湯布院や黒川温泉というようなところとはまた別ですから、これだけの自然をいかにうまく活かされるかということ、行政の力を借りながらですけれども自分たちが一生懸命がんばっていかねばならないと思っております。

[ 知事 ]

今おっしゃいましたように、中部横断道の話がありましたけれども、大体10年以内に完成するというので今仕事が始まっております。

ついこの間も富士川の渡る橋の起工式がありましたが、10年以内ということで、これができるというんな意味で大きな活性化の起爆剤になるだろうと思っておりますので、そのことを念頭に置いて町づくりとか、そういうことを進めておく必要があるんじゃないかなと思っております。

まず最初にお伺いしたいんですが、ここ2、3年の西山温泉、それから奈良田温泉はじめ、観光客はどうなんですか。

[ 参加者 ]

奈良田の場合は非常に努力しており、全国的な知名度も出ています。どのくらい増えているかは分かりませんが、減ってもいいと思います。

西山温泉ですと、やはり最盛期に比べれば入り込み客が少なくなっているというか、全体的に早川町に入ってくる車の数が昔よりは少なくなっているなという感じが如実に感じています。

というのは、ほかの地域が色々な面で観光施設とかを完備しているから、どうしても早川町のほうは余程のことがないと中々魅力に乏しいということだと思います。これからやっぱりみんなで考えてつくっていかねばならないかなという感じがいたします。

[ 知事 ]

一時秘境ブームみたいなものの中で大変に注目をされてきましたけれどもね。またやっぱり新しい何かの魅力をつくっていかねばいかんということがあるんでしょうかね。

[ 参加者 ]

私は旅館業と、それからバス、タクシー業をやっております。やはり年々お客様が目減りしているというのは、これはもうどうにもならない事実だと思います。

私はこの町の道路状況というか、立地条件を見ましてやはり奈良田から先が冬期閉鎖で、11月から5月まであの間が使えないというのはかなりの痛手ではないかと思っております。

山間地でもありますし、冬期閉鎖をしなければならないということも分からないでもないんですが、その辺がもう少し緩和されればいいかなということを常に思っております。そうすればもう少しこの地域もある意味活性化されていくのではないかなと考えております。

[ 知事 ]

まあ中々地滑り常習地帯、地盤の弱いところで、冬は凍結したりするとそれに伴う上から落石があったりとか何かで危険なものですから、これを冬もずっと通年オープンというのは中々難しいようですね。

[ 参加者 ]

そこが難しいけども、その終わる時期とオープンする時期を、せっかくのいい新緑が見られるできれば5月の連休前ぐらいに、その頃にはもう雪もないと当然思いますし。

[ 知事 ]

ある程度安定するまでには6月頃まで待たなければいかんということもあるようですが、しかし来年は今年よりももうちょっとオープンの時期を早めるようなことを考えているようです。

[ 観光資源課長 ]

地元の皆さんのご要望は非常に重く受け止めているわけですが、私どもマイカー規制などを進めています。先ほど知事からお話がありましたとおり、安全と観光という面で見ますとどうしても安全を優先する、これを第一にしております。

土砂崩落の原因というのは、雨で土砂がゆるんで崩れるのと、冬期に凍って、それが融解して落石があるのと、2種類あります。雨の場合は予想が付きませんので、これはいたしかたないんですけれども、凍結の場合はもう過去ずっと何十年も経験則がございます。ある時期には凍っていたものが溶けるということで、落石の確率が高いということ。道路管理者は判断して、その中で来年度は、少しでも皆さん方のご期待に応えられるように若干でも延ばしていこうという調整をさせていただいているところでございます。

[ 参加者 ]

これは先の話ですけれども、道も順次整備されて、広河原まであと3、4年経つと全部舗装も完了するんじゃないかと思えます。

そういう時に、今マイカーの乗り入れ規制をやっていますけれども、秋の紅葉のピークとか夏のピークとか、土日とかという時には制限をしても、普段はそんなに道が混んで困ることはないんですよ。

広河原までの県道が整備されたあかつきには、マイカー規制というのは時期的な規制とか曜日の規制というような方向にしてほしいです。10月半ば頃の紅葉のピークの時には本当にどうにも車が動けなくなるような現状はよく分かっています。そういう時には交通規制をしても、何年先かの話題として、普段できるだけあそこの道を使えるようにしていただきたい。

それから今広河原から北沢峠はバスのみで車は絶対通れないことになっていますけれども、あそこまでせっかく道を開いたら、やっぱり自然保護といっても交通しながら樹木とか崩落の保護ということをするれば、将来的には南信とこちらをつなぐいい道になると思います。

早川町のように道がどんづまりで観光というのは来ていただくのが中々大変なんです。どこかの通過地点であって、なお温泉があったり何かすると非常にいいものですから、将来的にはあの道はもう全然手を付けられない道だと諦めてしまうよりは、整備されて安全で

あれば時期をみて南信との交通の道として、将来そういうことを考えていただきたいです。

中部横断道が完成する10年後ぐらいにはそういうことが実現できるような方向性であれば、地元で観光業をやる人も次代の若者が帰ってこれるような観光事業もできるんじゃないかと思います。

[参加者]

私は西山温泉のちょっと手前の湯島の湯に勤めています。

早川の奥は昔は通れたけど今通れないということで、お客さんがいっぱい来て残念がっているんです。紅葉の時も、11月4日で閉じてしまう。今暖冬で割とまだ紅葉がきれいな時にもう閉まるから、もったいないし何とかならないでしょうかとお客さんも言います。

是非、通行止めも11月4日ではなくて、半ばまでとか20日頃までは何とか通してもらいたいです。あんなきれいな景色がありますから、是非お客さんに見てもらいたいです。

[知事]

11月4日、ちょっと早いような気がしますね。

[参加者]

私は雨畑で地場産業の硯を生産しています。

私たちの所には、静岡市と直結したような井川雨畑線があります、今年は全然通れなかったですけども、あれがいいドライブコースなんです。早川に入ってお昼を食べて色々温泉に入ったりして帰る、そういう日帰りドライブコースですので、あれが通れないということは残念だというご意見を聞いたんです。

特に早川の場合は山梨県のどこにもない西山温泉があり、地場産業で私たちが造る日本で誇れる硯がある、そして特にここは七面山があるんですよね。七面山へ参詣するお客さんは今までの数と比べて約半数近く落ち込んでいるんですが、参詣客の高齢化ということもあるんですけども、やはり交通のアクセスをきちんと整備するというのがこの観光を良くしていくんだと思うんです。

それからあと一つは、これは私ども自身が考えなければならないことですけども、例えば硯の場合にしても、ジュエリーにしても、それから郡内の織物にしても、これをつくる人づくりをしていかなければいけない、これは山梨県の観光のためにも大事じゃないかと提言をしてみたいです。

[知事]

雨畑線は夏場でも通行止めになることが多いんですか。

[参加者]

今年は最初から通れないです。

土砂崩れがあって、あと少したてば良くなるようですけども、是非あれは通れるよう

にしていきたい。有名な名山もたくさんありますからね。

[ 参加者 ]

町営の VILLA 雨畑・ヘルシー美里で日帰り温泉客のデータを取ってみると、6割から7割くらいが静岡のお客さんです。井川雨畑線から通れるようになってくると、そういった数字も必然的に伸びてくるんじゃないかと思うんですけどね。

[ 参加者 ]

言い出せば結局道路の話なんですけど、もう何年か前から話題になっていますけれども、芦安の桃の木温泉からいわゆるドノコヤ峠の下を通る南アルプス周遊道路というのがあります。やはり行き止まり状態を解消し、通年で生活関連道路・観光道路として利用できるように道路の新設も考えていかなきゃならないと思います。

それと先ほど話がありましたけれども、雨畑の道路というのは非常にやっぱり重要だと思います。というのは、最近静岡に行きますと静岡の方があそこを利用して是非早川に來たいという人がいっぱいいます。雨畑と静岡の向こうのほうの山の環境が大分違うんですね、私、自然好きなもので写真を撮って歩いているんですけども、雨畑という地域が実はおもしろい所で、地層そのものはすごいもろい所なんですけれども、いろんな希少な植物があるんです。そういう価値のあるものがあるということを知ってもらい、その中から自然保護というものを考えていくというのが、早川が目指す観光の形態だと思います。

[ 知事 ]

南アルプス周遊道路といって、向こうの桃の木温泉から奈良田の少し上ぐらいのところに出るわけですが、お金が相当掛かるという事業でもあるし、かつ、かなり山が弱いものだからね、山の中の地質の構造がどうなっているかというのもよく分からないということでした中々大変で、100億近い金が掛かるんだと思うんですね。

しかし課題ではありますよね、確かにね。私も大きな課題だというふうには思っていますけれどもね。

[ 参加者 ]

15年前に品川と早川町の交流で、品川区役所の紹介で早川町に引っ越してきました、地元の木材を使って彫刻を造っております。

私が木の作品を、妻がガラスで作品を作っています、ここに今展示しています。早川町に8年前から自分のギャラリーを開きまして、そこで自分の作品の展示と販売をしています。

昨年からは富士川全体、峡南地域の物づくりを中心にした地域活性化ということを目指しまして、『富士川流域の技・作家たち展&六斎市』というイベントを開いております。この峡南地域にはたくさんの工芸家、作家の方がいらっしやいます、今年こういう紹介の

チラシというかパンフレットと、その作家の住んでいる工房を紹介した地図を作りました。

イベントの内容としましては、作家の展覧会は増穂町で開催しまして、峡南地域の作家の方を紹介しています。関連したイベントとしまして、富士川流域の書道紙、はんこ、硯を紹介した富士川流域の文房書具展というのを今年開催しました。

こういった感じで、この富士川地域で物づくりをするような人を充実させていくために、そういう伝統工芸の作家の方たちを応援しながら、より多くここにそういう方たちに住んでいただいて、そしてこの峡南地域、富士川地域を、静岡や東京、名古屋などへこの地域がそういう工芸的なものがあって、文化が素晴らしい場所なんだというふうなことをアピールしながら、お客さんが早川町に来て、早川町の温泉に泊まってということができるような早川町になっていけばというふうに私は思っています。

それで私が早川町に品川の交流で引っ越してきたというきっかけもありまして、早川町だけで新しく住む方を中々集められないということもありますので、もし県のほうで山梨県に引っ越して作家活動をしたいという工芸家の方とかを早川町に紹介するようなルートを作っていたら、作家の方をたくさんこの地域に集めてもらって、地域の地場産業みたいな感じになっていければ、若い人とか、いろんな方もまた住めますし、文化的にこういう充実した町だというふうになれば、住んでいる方々も自分たちの町に誇りを持ってますしと思っています。

この「富士川流域の技」というのをまた来年以降も続けていきたいと思っております。

[ 知事 ]

かなりお客さんは入ったんですか。

[ 参加者 ]

はい、大体2千人から3千人ぐらいに来ていただいております。

[ 知事 ]

何日間おやりになったんですか。

[ 参加者 ]

大体10日間ぐらいなんですけれども。是非また来年がんばって、私実行委員しているんですけれども、その時はまた応援していただければと思っておりますのでよろしく願いします。

[ 知事 ]

そういう芸術家だけではなくて、田舎住いといいますか、そういうものに対する志向が非常に強くなって、特に団塊の世代などが定年を迎えて、その需要というのが非常に大きいものがあるということをおっしゃいますよね。

それで山梨県が山梨への居住というものを、二地域居住というんですけれども、盛んにやっているわけですがね。早川町さんも一緒になってやって、東京の物産館でそういう相談コーナーを作ったりとか、あるいはホームページにこういう所があると、具体的に

住宅を紹介したりとか、早川町も熱心な所ですね。どのくらい成果が上がっているんでしょうかね。

[ 観光振興課長 ]

早川町、日本上流文化圏研究所がおみえになっていますけれども、実はこの9月に相談会を東京でやっているんですが、200人ぐらいの人が来て相談を受けたんですけれども、そういった相談会にも出てきてもらっています。

今年はお試し体験といって、1軒の空き家を整備していただいて、多分ちょっと見るだけでは中々分からないというのがあるので、1週間、2週間そこで暮らしていただいて、そして早川のいい所をじっくり見ていただいて、気に入ったら空き家を紹介しますということも県下で3か所のうち一つは早川でやっていただいて、ですから作家の方が住みたいということであれば、是非とも直接日本上流文化圏研究所へお話をしてもいいかなというふうに思います。

[ 参加者 ]

自然を生かした観光振興ということですが、新しく観光事業を考えるというよりも早川町には上流文化圏研究所がシンクタンクとなって町全体をミュージアム構想といって観光をはじめ、色々な情報を発信しています。

しかし町民も無関心の方もかなりいらっしゃるわけです。何かが足りないなというも感じているんですけれども、町民全体が力を出し合って考えて、目玉を打ち出すということに発展させていく必要があると思うんです。そしてこのことを進めていく上で、本当に若い強力なリーダー、それを是非欲しいなと常日頃感じています。そうすれば何かがいいものが芽生えてくるんじゃないかなと思うんですよね。

それから今問題になっております地域格差のことですが、一番私どもにとりましては医療のこととか気になることなんですけど、住民は減るし、経済的には大変だということで、病院に掛かりたいけれどもあの科もないよ、この科もないよというようなことだったら大変だということを強く感じるわけです。

私たちがただ行政にお任せでなくて、自分たちもやるよという気持ちでありますので、よろしく願いいたします。

[ 知事 ]

医療は飯富病院がしっかりしていると思いますが、そうでもないですか。

[ 参加者 ]

今はいいですが、これからが問題なんです。

それと、高齢者で車の運転もしないという方が結構女性に多いんですよ。町でも、みんなまで乗っていくタクシーというようなことも考えて下さってはいるようなんですけれども。



[ 知事 ]

やっぱり足の便がね。

だけどリーダーは若い人がそこに3人いるんじゃないですか。

[ 参加者 ]

日本上流文化研究所です。

この研究所も設立されてから11年がもうたつたんですけれども、当初は町民の方に中々理解されずに大変だった面も多かったんですけど、色々活動を通す中で理解していただく方もかなり増えてきて、今では最初に比べれば本当に町民の方の見る目も大分温かくなって、いろんな活動もやりやすくなってきているところではあります。

今、町と共同で早川町全体を博物館ととらえて、その中で早川町の住民の方々と普通にもっている生活の技術とか技とか、色々都会ではスローライフとか口ハスとかという言葉がもてはやされていますけど、そういう文化をしっかりと残していくとか、またそれを観光面でも活用していこうというような取り組みを徐々に進めているところです。

県の観光部の方々とも相談する中で、そういう早川町の文化を体験してもらおうツアーを旅行会社とも連携しながらこれから少しずつ都会の方たちに紹介して早川に来てもらう、そんな取り組みをこれから始めていきたいと思っています。

そういう中で、早川町の場合はたくさんの団体客を受け入れるキャパシティーが余りないところが多いので、もう少し交流型の観光を進めていこうということで、早川町を応援してくださるサポーターズクラブという町外の方々を今募っているところです。4年目ぐらいになるんですけれども、今250人ぐらい会員がいらっしやいまして、年間5千円ぐらい会費をいただいて、その中でこういう早川町のいろんな文化とか魅力を伝えるような会報なんかも作らせていただいています。

[ 知事 ]

私が山梨サポーターズクラブというのを作りました。これは早川サポーターズクラブの名前を盗んできたようでしたな。

[ 参加者 ]

そんなこともやっていますので、是非また県のほうでもPRしていただいたりしていただければ。

[ 知事 ]

こういうパンフレットなども中々あか抜けしてますね、皆さんがお作りになったんですね。

[ 参加者 ]

早川町は、一見山があって川があって自然が豊かなように見えるんですけど、実際は以外とそうでもないというか、川も水力発電所が町内に十何箇所もあって、水がほとんどそ

の山の中のトンネルを通るといような状況で、川に魚も少ないですし、本当に生態系としては余り良くないということで、中々観光客が河原で遊んだりしづらいうような状況になっています。

県の発電所等もありますので、是非早川町、この早川に水をもう少し戻していただくような、そういうご協力を県としてもしていただければと思っています。

今その辺をどう解消していくかというのが、早川町のこれからの課題かなと思っています。

[ 知事 ]

そうですね。川から水をどかっと取っていっちゃいますからね。

[ 参加者 ]

灯油が高くなったので、物置に親が焼いた炭がたくさん残っていたんで出してきました、朝起きたら大きな火鉢に火をおこしまして、煮豆、ふるふき大根を煮る、掃除しながらお湯が沸く、私こんな素晴らしい炭を使った生活があったのかと今感動しているんですよ。

でもこの炭がなくなったら私はどうしようと考えた時に、炭焼きの技術を後世に残しておく、勉強も大事でしょうけれども、そういう技術を中学生ぐらいの次の世に受け継いで勉強の中に取り入れていただければ・ ・

[ 参加者 ]

昔は、林務で炭を焼く講習会なんていうのをやったことがあるんですよ。そして炭を専門家が作って、そして普及した時代もあったんです。

[ 参加者 ]

私は七面山の麓で旅館をやっていますけれども、年間早川町に入ってくる観光客の半分ぐらいは七面山に参拝するお客さんが来るんです。それで七面山と麓の角瀬（すみせ）との間の道が余りよくないんで、もう少し整備をしてもらいたいなと思っています。

[ 参加者 ]

早川町の農業は、本当にじいちゃん、ばあちゃんの農業でして、決して大きく大々的にするということではできません。だけど皆さんが大豆を作ったりとか小豆を作ったりとか、そういうものを多少作っております、一番誇れるのは、消毒とかそういうものを全くしていないものなんですね。今県で進めておりますスローフードで非常に価値の高いものになるかと思うんですよ。けどもそれを理解して扱ってくれるところが全くないというのが今年の年寄りの悩みです。

[ 知事 ]

それは販売する場所がないということですね。

[ 参加者 ]

扱ってくれる所、例えばそれを出荷する場所がなくて。

[ 知事 ]

農協はだめですか。

[ 参加者 ]

農協でも余りたくさん預かって売れないので困るよとか、何キロ以上ないとだめだよとか、そういう感じがあります。

早川町の大豆の場合は、すごい良い物なんだよ、非常に安心、安全で食べられる物でというような、そういう何かお墨付きみたいなものが貰えれば、もっと市場が何かに出せると思うんですけども。口でいくら言ってもそういうものは余り商品が少な過ぎて認めてもらえないというようなことが実際にあります。

[ 知事 ]

どこか直売所みたいなものに出しておくという事はできないんですか。

[ 参加者 ]

ここでいうと中富の直売所で扱ってくれるようですけど、早川町からの場合はよその町、よその農協というようなことになりますので、また足代がちょっと違う、私も何とかならないかと、特に今年はまた頭を痛めました。

[ 参加者 ]

私は、硯匠庵にお手伝いに行かせてもらっています、硯の制作、展示、販売、それから小さな茶房があります。

わざわざ硯をご覧になるのに全国からというくらい遠くからもおいでになります。非常に知名度もあるんですが、制作している職人さんの仕事を見てそこで感動して、新しく硯を求めようという気持ちになる方も結構いらっしゃいます。

今、硯匠庵で作業をしていらっしゃる方は一人しかいませんので、その後続く人が欲しいなというところが一つ。

それから二つ目は、硯のことをお話ししながら雨畑地域の文化のお話とかもちょっと加えてお話ししていきますと、皆さんが地域を改めて見直してくださるんですね、そういう触れ合いをすごく私は大事にしながら、早川町でも数少ないお客さんでも心を込めてお話をしたりできれば、これからもまたお客さんは増えていくなというそんな気がして日々やっています。

[ 知事 ]

硯匠庵の管理はお二人が任せられているんですか、ご苦労さまですね。やっぱり一時に比べればお客さんは減ったんですか。

[ 参加者 ]

減りましたね。私は、町民、全県民がもてなしの心を持つこと、観光はもうこれが一番大事だと思います。

[ 参加者 ]

去年の8月に引っ越してきてまだ1年ちょっとなんですけれども、上流文化圏研究所の中で主に観光としての地域振興をやっているんです。

早川の観光として何が魅力かという住んでいる人たちと、その住んでいる人たちが培ってきた暮らしみたいなものが都会の人たちにとっての癒しとか、求めているものにぴったりくるんだろうなと思って、その自然体験とか山体験とかを旅行業者と提携して色々やっついこうとがんばっているんですけれども、本当ならば私たちみたいなNPOが主体になって外から人を呼んでくれるようになったらいいなと思っています。

旅行業法の関係で登録がないと今はできない状況ですので、そこをもうちょっとハードルが下がるといいなと思っています。

あとは地域と一生懸命がんばってやっていきたいと思います。

[ 知事 ]

まあしかしこういう若い方々が外からおいでいただいて素晴らしいことですね。それだけやっぱりこういう若い人たちの心を揺さぶる何か魅力があるんでしょうね。まあ本当にありがたいことだと思いますね。

[ 司会 ]

では皆様のご発言を全部受けて知事さん、感想を交えて最後にひとことお願いいたします。

[ 知事 ]

貴重なお話をいただきましてありがとうございます。いろいろな話を伺っていると、やっぱりまずは道路ですね、大変に切実なご要望があるなということを改めて感じますですね。確かにそのとおりなんで、周遊型で観光客が回れるような形になればこれはもう全然活気が違ってくるでしょうね。

少なくとも林道みたいなものはできるだけ地滑り、その他で交通ストップがあってもなるべく早く修復して、特に幹線的な静岡と結ぶ林道とか、そういうものは通行できるようになるべくしなければいけませんね。それは心してそのようにやらせるようにしたいと思います。非常にお金の掛かる部分もありますけれども、大きな課題として決して諦めるこ

となく、こういうものは諦めないでやっているといつかはできるもんなんです。だから努力をしていただきたい。私どももまた十分頭に入れておきたいと思っております。

それから色々なお話がありましたけれども、水、早川にもっと水を取り戻してもらいたいというのも全くそのとおりだと思いますし、色々な技術、炭焼きの技術とか、そういうものの伝承をしていかなければならないということもあると思いますね。中々学校教育でというわけにもいきにくいところが、総合的学習の時間とか、そういうところでやればいいかなと思ったりしますけれども。

それから本当にお年寄りが一生懸命そうやって有機栽培のようないい物を作っても、量が少ないだけに中々販路がないというのが、かわいそうですね。何かうまい方法があればいいなと思いますね・・・。

まあ色々なご意見をいただきました。しかしさっき申しましたように東京から、あるいはよそから若い人に大勢来ていただいて、こうして芸術活動をしていただいているということは本当に素晴らしいことだと思うんですね。やっぱりこの地域にそれだけの魅力があるということでしょうから、まだまだ磨けば光る玉だなというふうに思いますね。県としても最大限の皆様方のそういう努力を応援をしていきたいというふうに思っております。時々またこれからもやってまいりますけれども、どうか一つがんばって良い町にしていきたいと、お互いにがんばっていきたいと思います。よろしく願いいたします。

[ 司会 ]

本当に今日は有意義な時間が過ごせたと思います。

ありがとうございました。